

新たなチャレンジ

北海道生活科・総合的な学習教育連盟
委員長 熊谷 雅史（札幌市立中沼小学校長）



吉田 信興 前委員長よりバトンを受け、今年度より委員長を務めさせていただくことになりました、札幌市立中沼小学校 熊谷 雅史 でございます。

さて、4月24日（土）新型コロナウイルス感染症の緊張感が高まる中ではありましたが、「連盟創立 30 周年式典」を無事に終えることができました。短い時間ではありましたが、4名の歴代委員長の皆様をお招きし、感謝の気持ちをお伝えするとともに、連盟の歩みを振り返り、新たな一歩を踏み出す素晴らしいひと時となりました。感染症対策を講じながら全道各地区より足を運んでいただいた皆様、Web 会議ツール（Zoom）を通してご参加いただいた皆様、本当にありがとうございました。

また、その後行われた「全道代表者研修会」では、各地区の活動報告や活動計画を交流し、7月の釧路地区主管「全道夏季研修会」、10月の函館地区主管「全道研究大会」についても、詳しい内容や運営方法などが確認されました。どちらもオンラインを活用し、その利点を最大限に活かしながらの開催となります。連盟としての『新たなチャレンジ』となりますが、必ずたくさんの成果を上げていきたいと考えているところです。

本来であれば、令和元年度の上川地区・旭川地区で得た大きな成果をつなぎ、勢いを付け、学習指導要領初年度に挑んでいこうと考えていました。しかしながら、昨年度（令和2年度）は、4月の全道総会より全ての活動を休止するという、未だかつて経験のない苦渋の決断を迫られました。それでも、この休止を充電期間であったと前向きにとらえたいと考えます。この難局においても、遠く離れた会員の皆様とつながり、絆を深める機会となりました。そして、「変化の激しい社会」という表現以上に正解が見付からない複雑な状況に直面し、改めて生活・総合の大切さを再確認する機会にもなりました。

残念ながら、今年度も教育活動に様々な制限がかかり、生活・総合にとって追い風が吹く状況とは言いきれません。しかし、「自立し生活を豊かにしていく」生活科、「自己の生き方を考えていく」総合的な学習の時間で育成される資質・能力は、「正解のない複雑な課題に対して、知識をフルに活用し、自ら考え判断し、他者と協働しながら最適解、納得解を導き行動する力」につながります。「教育課程の重要な結節点」としての生活科、「学校経営の中核となる」総合的な学習の時間のさらなる充実・発展に向け、「オール北海道」で取り組んでまいります。全道各地区の力を結集し、「北の大地」で展開される確かな実践を全道、全国へと自信をもって発信していきたいと考えます。

この一年間、どうぞよろしくお願いいたします。

価値ある体験を通して 資質・能力を育てる

～子どもの姿で語れる実践を目指して～

研究部 小山 恒（札幌市立川北小学校）

自ら学びの世界を拓け

よりよい自分を創る子ども



昨年度は、世界で未曾有の感染症が蔓延し、教育活動に制限がかかる中、連盟としての活動は中止や延期を余儀なくされました。対話ができない、体験ができない中、「生活・総合の学びとは」「生活・総合で育つ子どもの姿とは」ということを改めて考えながら、これまで大事にしてきたことと、これからより一層明らかにしていかななくてはならないことが浮き彫りになった1年だったように思います。今年度は、連盟としてウィズコロナの世の

中だからこそ、発信できることを考えていく1年。そして、もう一度全道が結束して再スタートを切ることができる1年にしたいと考えています。これまでの成果や課題を今年度の函館大会につなげていきます。学習指導要領下で生活・総合がどのような学習を進め、価値ある体験を通して、子どもに資質・能力を身に付けさせていくか、子どもの姿で語る授業を考えています。

「学び」を広く捉える

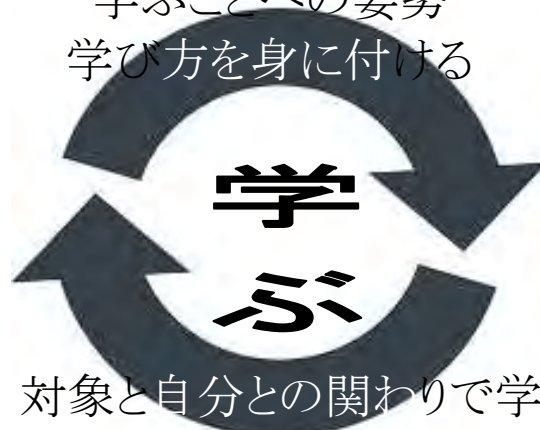
総会資料の研究主題でも提案していますが、我々生活・総合の実践者は、「学び」を広く捉える必要があると、これまでも言い続けてきました。私たちが大事にしてきた「生活・総合の学習観・子ども観」が、学習指導要領に色濃く出ているとも考えられます。子ども主体の学びの在り方を考える際に、子どもが生き生きとした姿を表出できるような「学びの在り方」を考えていきたいと思ひます。



子どもにとって価値ある学びとはどのような学びなのか、理想とする学びの実現に向けて我々教師はどのような準備をする必要があるか…。制限がかかった教育活動の中で、生活・総合の本質が見えてきた今だからこそしっかりと足場を固める必要があります。

学習指導要領に示される「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」の実現に向けて、生活・総合の考え方は、これまで以上に大事にされ、また注目を浴びることでしょう。全道の力を結集し、生活・総合の理念を広く発信していくためにも、本連盟の実践の数々を振り返り、我々の果たしてきた役割やその成果を見つめるとともに、今後も一層、「確かな理論構築」「子ども主体の実践提案」「妥協なき検証」に励みたいと思ひます。

学ぶことの意味を捉える
学ぶことへの姿勢
学び方を身に付ける



対象と自分との関わりで学ぶ
学び方やものの考え方を身に付ける
自己の生き方を考える

これからの生活科・総合的な学習の時間

■これからの生活科

体験を振り返る活動や伝え合う活動を通して、気付きの質を高める生活科

+ 気付きの質を高めることの更なる重視

(言葉と体験の充実、気付いたことを基に考える 等)

■これからの総合的な学習の時間

問題の解決や探究活動の過程を通して、物事の本質を探って見極めようとする総合

+ 探究の過程を一層重視する

(探究課題とその解決を通して学ぶ資質・能力の明確化 等)

本連盟では、生活科や総合的な学習の時間で目指す授業の姿を上のように設定してきました。大事にしていきたい内容は大きく変わりませんが、学習指導要領にもある通り、「更なる重視」「より一層重視する」という言葉の意味を考え、理論構築や授業実践につなげていきたいと思っています。

また、「目指す子どもの姿」を、資質・能力を面から捉えることはこれまでと同様です。体験や活動を通して、教師は子どものどのような姿に「生活や総合の学びの価値」を見いだし、どのような姿から「資質・能力の高まり」を感じ、どのような「資質や能力」を育んでいこうとしているのかなど、教師の「見取り」や「評価」についても明らかにしていきたいと思っています。

研究の重点の設定

昨年度、検証が叶わなかったため、重点を今年度も継承していきます。重点を設けたのは、道連盟の在り方として、目指す方向性を一つにするためです。「授業づくり」の観点からは、資質・能力を高めるための授業の在り方を考える必要がありそうです。生活科であれば「言葉と体験」「気付きの質の高まり」につながることであり、総合的な学習の時間であれば「探究課題」「探究課題の解決を通して学ぶ資質・能力」に関することになるでしょう。

重点① 子どもの資質・能力を高めるカリキュラム・マネジメントの在り方

【資質・能力の面からの検証】

- ・生活科・総合的な学習の時間を軸に！
- ・他の教科・領域等と関連させる効果、可能性！
- ・一つの方法として実践と合わせて提案！

・学習活動全体を俯瞰
・単元配列表の作成
などの検証

重点② 子どもの資質・能力を高める学びのプロセスの在り方

【「教師のかかわり」「指導方法」の観点からの検証】

- ・学習の過程を一層重視！
- ・学び方や学びの姿を具体的に想定！
- ・子どもを育てる具体的な手立て、見取りや評価！

・子どもの育ちの
到達点と通過点
の明確化

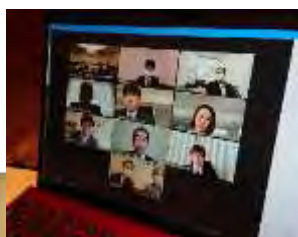
今後2年間実践を積み重ね、函館大会の授業や課題別分科会のテーマとも連動させながら、精度の高い検証をしていきたいと考えています。今年1年、よろしくお願いいたします。

北海道生活科・総合的な学習教育連盟

創立30周年記念式典

令和3年4月24日(土) ホテルライフオーテ他

本当なら昨年度に行うはずだった「創立30周年記念式典」が、場所を変え、規模を大幅に縮小し、やっと開催されました。会場には、各地区から数名ずつ参加していただきましたが、それ以外の方はオンラインによる参加ということで会場は寂しく、盛大に、とはいきませんでした。それでも2年越しに開催されたことが大変価値のあることだと思います。わざわざ札幌まで来てくださった方々、オンラインで参加してくださった方々、これまで準備してくださった方々、当日運営してくださった方々、すべての皆様に感謝し、開催されたことを糧に「オール北海道」で今後の40周年、50周年に向けてさらに歴史を刻んでいけたらと思います。



1 開会の言葉

2 委員長挨拶

・・・・・・吉田 信興 委員長

3 ご来賓紹介

・・・・・・第10代委員長 高橋 透様

・・・・・・第11代委員長 三好 哲司様

・・・・・・第12代委員長 大室 道夫様

・・・・・・第13代委員長 磯島 年成様

4 ご来賓ご挨拶

・・・・・・代表 高橋 透 様

5 感謝状の贈呈

・・・・・・吉田委員長より4名の方に贈呈

6 記念誌の紹介

・・・・・・記念誌係 照井より

7 閉会の言葉



令和3年度

北海道生活科・総合的な学習教育連盟

全道総会



令和3年 4月24日(土) ホテルライフオート他

創立30周年記念式典に続いて、全道総会を開催

令和3年4月24日(土)、本連盟の全道総会がホテルライフオート札幌を会場に行われました。内容は、全道代表者会を兼ねていました。

議案書に沿って吉田委員長より挨拶がありました。その後、経過報告、各地区の活動報告と計画があり、今後の全道大会と全道宿泊研修会について検討しました。中でも、今年の夏に行われる全道宿泊研修会開催地の釧路地区からと、秋に行われる全道大会開催地の函館地区からそれぞれ取り組みの経過報告がありました。

総会としては議案が可決され、新役員の紹介があり、この日をもって新旧役員が入れ替わりました。それに併せて昨年から今年に延期された連盟創立30周年記念事業も行われました。また、日本生活科・総合的な学習教育学会理事で元委員長の三好哲司先生、同じく学会理事で前委員長大室道夫先生にもご出席いただき、三好先生からはご挨拶もいただきました。

令和2年度の各部の一年間の取り組みの様子は加藤事務局長より報告されました。また、令和3年度の活動計画では、丹羽研究部長より、昨年度行われた日本生活科・総合的な学習教育学会北海道大会の成果と課題を踏まえて、今年度目指す方向性が示されました。今年度の新役員発表、事務局員委嘱もされ、令和3年度の新体制がスタートしました。今まで以上に各地区との結束が強まった総会となりました。



《令和3年度 役員》



委員長

熊谷 雅史（札幌市立中沼小学校 校長）

副委員長

加藤 秀樹（札幌市立美園小学校 校長）

渋谷 一典（札幌市立三角山小学校 校長）

＜各地区 会長・委員長＞

監査

鵜飼 麻未（札幌市立厚別西小学校 校長）

理事

中川原 雅広（札幌市立栄東小学校 校長）

西出 勉（北翔大学 教授）

事務局長

丹羽 洋彦（札幌市立栄北小学校 教頭）

事務局次長

蝦名 悠太（札幌市立太平小学校 教諭）

今年度は、全道代表者会議のみ行われました。参会者も各地区から数名のみで、zoom で参観する形をとりました。

全道代表者研修会

1 吉田 信興 委員長挨拶

2 経過報告

3 各地区の活動報告・活動計画

札幌・旭川・釧路・函館・留萌・オホーツク・渡島・上川・後志地区の順で、R2 活動報告と R3 活動計画をお話いただきました。コロナ渦でも授業研究を重ねていたり、会員募集に努めていたり、臨機応変に活動を進めている地区が多く、さすが本連盟の強みだと思いました。

4 検討事項

(1) 次年度以降の全道大会・宿泊研修会について

5 今年度の活動について

(1) 全道宿泊研修会について

7月24日(土)・25日(日)の二日間で開催される宿泊研について、主管の釧路地区よりお話いただきました。昨年度全道大会を開催することができず、その悔しさをバネに宿泊研を成功させたい、との思いをお聞きました。このコロナ禍の状況下で、オンライン開催という苦渋の決断ですが、初めての試みを考えて準備してくださっています。未知のことばかりで心配されていると思いますが、先日、リハーサルも行われ、あとは開催を待つだけです。ぜひ皆さんで参加して会を盛り上げましょう。

(2) 全道研究大会(函館大会)について

10月に行われる全道大会について、函館地区より説明いただきました。こちらでもオンラインでの開催になります。まだ数か月先のことでありますが、授業づくりなどで夏休みにも話し合いが行われると思います。また、授業を前撮りしオンラインで参観するという初の試みがうまくいきますよう、皆さんで参加し、盛り上げていければと思います。

6 総会議案についての意見集約

.....全ての議案が議決されました。

7 新旧役員挨拶

ピンチをチャンスにしていけたら。

①「つながる・つなげる」

つながりを大切にしながらできることを進めていきましょう。

②「挑む」

オンラインなど初の試みにも挑戦。

8 連絡

9 渋谷一典副委員長挨拶

久しぶりに札幌に戻ってこられた渋谷元調査官が副委員長になりました。ご来賓の立場ではなく、同志としてのお言葉をいただき、心の中で「お帰りなさい。」とつぶやいた方がほとんどだったと思います。

ギャップ。①コロナの前と後。②学習者と指導者。③各地区・県境・ブロックなどを越えたもの。この3つのギャップの先を見据えた研究を進めて行けたらいいのではと思います。

